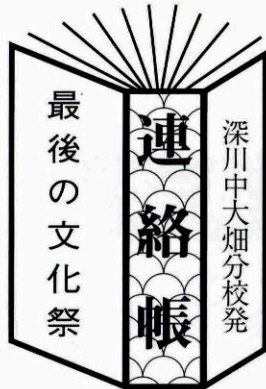


吉富秀紀さん  
3年(山小根区)

今年の文化祭のテーマは「ふれ合い」。児・小・中が文化祭を通してふれ合う中で、お互いを高めることを目標に取り組んできました。

児童館の子どもたちのかわいい遊戯、小学生の元気いっぱいあふれる音楽劇や手話劇、そして、全員で模索しながらつくり上げた僕たち中学生の劇。これが最後と思うと思わず力が入り、1・2年生への指導も厳しくなったりしたこともありました。失敗の連続で、何度なくじけそうになる思いを皆で励まし合っ

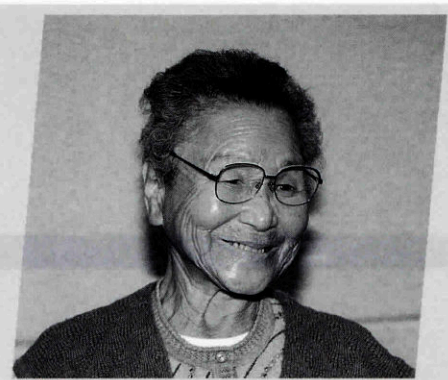


深川中大畑分校発

最後の文化祭

ながら、やる気にかえていきました。運営の難しさも知ることができ、今は、成し遂げた満足感でいっぱいです。

児・小・中の合同文化祭は、今年で4年目になります。年々皆のやる気や演技、展示にも磨きがかかっています。これからもふれ合いの場を生かし、よりよいものに発展させていってほしいと思います。

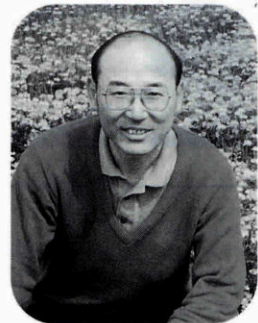


20歳で結婚、以来ずっと近所で煮干しいりこやすぼしを作る仕事をしている。「もう何十年になりますかね。長いというだけで今、責任者をさせてもらっていますよ。みんなでわいわい話をしながら働いている時が一番楽しいですね。毎年10・11月は忙しいのですが、今年是不漁のようでそれほどもなく、老人クラブのしめ縄作りの手伝いに行っています。家の中にあるよりも、外の方が好きですから働くのも全然苦になりません」

そんな西村さんの一番苦しかった思い出は、やはりご主人が戦争に行っている間の生活だったという。「家族のため一生懸命働きましたが苦しかったですね。でも身近に魚があったことが大きな助けになりました。私にとっての健康

### ふるさとながと ③

## こんにちは



山田 照ひろしさん  
(愛知県岡崎市)

### 子どもの頃の思い出

「ふるさとの なまり聞こえて 駅近し」美祿線が湯本を過ぎ、板持にさしかかると前方に母の生まれた青海島の高山が見えてきます。この風景に接すると故郷に帰った実感がします。

に移り、何となくせわしい世の中になつてきました。

私は、長門市から約800キロ離れた愛知県に住んでいます。50歳を超えた今、時折、幼友達と遊んだ小学生の頃を思い出します。あの頃は、何でも自分達で道具を作りました。東山のハゲ山で滑ったソリは、ノコギリとカナズチを使ったし、城山でのセミ取りも細い竹を曲げて輪を作り、そこへ女郎グモのネバネバした巣を巻きつけて網を作りました。そんなことが、物を作る面白さや共同作業の楽しさを教えてくれた気がします。

そんな中で、長門市は、近松や金子みすゞに代表される文化都市であり、高山のオートキャンプ場も自然との調和を大切にしていると感じました。これからは、緑豊かな山、青い海、清き水が流れる、みんなのふるさとであってほしいと思います。



1960年8月(高2)友人と一右

略歴

昭和19年正明市4区で生まれる。  
昭和41年岡山大学法文学部卒業後、トヨタ自動車㈱に入社。現在第7生技部課長として人事労務等担当。